

## 乳幼児教育相談では

聞こえない・聞こえにくいお子さんにも、聞こえるお子さんと同じように無限の可能性が 있습니다。その可能性を開くのは、そのお子さんに合った教育方法です。ここは、その教育方法の実践の場であり、お子さんに合わせて保護者の方を支援していく場です。

またここは、「聞こえない・聞こえにくい世界」への入り口でもあります。この入り口のドアの向こう側には、聞こえない・聞こえにくいお子さんと、そんなお子さんを育てているパパやママ、子どもたちの先輩である大人の聞こえない・聞こえにくい人たち・・・たくさんの仲間がいます。子どもの成長を喜び合い、悩みを相談し合える、新たな出会いが待っています。

私たちと一緒にそのドアを開けてみませんか。

きっとお子さんの輝く笑顔が待っています。



## 久留米聴覚特別支援学校 乳幼児教育相談で大切にしたいこと

1. 乳幼児期にふさわしい生活や遊びなどの経験を通して、子どもの心身の調和のとれた発達を支援します。
2. 安定した親子関係をもとに、視覚や聴覚などのさまざまな感覚を活用し、子どものコミュニケーション意欲や言葉を育てる支援をします。
3. 保護者の方が聞こえない・聞こえにくいことへの理解・認識を深め、安定した子育てができるように支援します。
4. 他機関と連携を取りながら、個々のお子さんに応じた指導・支援を行います。

### 1. 乳幼児期にふさわしい生活や遊びなどの経験を通して、子どもの心身の調和のとれた発達を支援します。

乳幼児期のお子さんにとっては、ままごとや外遊びといった遊びの時間だけでなく、生活のすべてが遊びであると言えます。この時期は、子どもの遊びの世界を豊かにし、暮らしの中で基本的な生活習慣を身に付けていくことが大切になります。やりとりを楽しみながら親子で遊びや生活を楽しむことが、子どもの心を育て、言葉を育てることにつながります。



### 2. 安定した親子関係をもとに、視覚や聴覚などのさまざまな感覚を活用し、子どものコミュニケーション意欲や言葉を育てる支援をします。

子どもは一番身近な大人（保護者）との安定した関係を基地として、さまざまな人や物に自ら関わり、自分の世界を広げていきます。親子の安定した関係を築くためには、互に通じ合い、共感できる経験を積み重ねていくことが大切になります。聞こえるお子さんであれば、音声での会話や情報で理解し合い、共感関係を築いていきます。しかし、聞こえない・聞こえにくいお子さんの場合は、音声による会話や情報が入りにくいため、うまく通じ合えず、共感関係が築きにくかったり、コミュニケーションの意欲が育ちにくかったりすること



があります。そこで、視覚的な手段など、お子さんにとって分かりやすい方法を用いて伝えあい、通じ合う喜びを味わう中で、お子さんの伝えたい、分かりたいという意欲を育てていきます。

### 3. 保護者の方が聞こえない・聞こえにくいことへの理解・認識を深め、安定した子育てができるように支援します。

ほとんどの保護者が聞こえる方であり、これまでは音声言語を用いて生活をされてきたかと思います。音声による会話では、互いに顔を見なくてもやりとりができます。しかし、聞こえない・聞こえにくいお子さんとのやりとりは、顔を見合わせ、しっかりと目と目を合わせて会話することが大切になります。お子さんとの会話は、上から、後ろから話しかけるのではなく、お子さんの前にしゃがみ、視線を合わせることから始まります。乳幼児教育相談ではそんな方法について学ぶことができます。また、お子さんの将来の姿を思い描くために、成人の聴覚障がい者の方や、聞こえない・聞こえにくいお子さんを育てた先輩保護者との出会いの場を作り、さまざまな機会を通して聞こえない・聞こえにくいことへの理解・認識を深めていただくことを大切にしています。



### 4. 他機関と連携を取りながら、個々のお子さんに応じた指導・支援を行います。

お子さんと保護者の方は今後、医療・行政・福祉・教育などのさまざまな機関と関わっていくことになります。それらの機関には、医師・言語聴覚士・聴覚特別支援学校の教師などお子さんと保護者を支援する専門家がいます。本校では、さまざまな方法で関係機関と連携を図り、それらの専門家がチームを組んでお子さんと保護者の方への共通理解を図りながら支援を進めていくことを大切にしています。



## 乳幼児教育相談の内容

### ①グループ指導・支援

お子さんにとっては、遊びを通して、同じ聞こえない・聞こえにくい友達と仲良く遊んだりけんかしたり、また協力したりして人との関わりの基礎を築く場です。保護者の方にとっては、同じ聞こえない・聞こえにくい子どもを育てる親同士、気持ちを共有し合い、情報交換ができる場でもあります。さまざまな楽しい活動を通して、子どもとの接し方を学び、関わり方を見つめ直す場ともなります。

#### 【内容】

- ・親子（自由）遊び
- ・設定遊び（制作遊び、季節の行事、クッキングなど）
- ・保護者同士の懇談会、担当者と保護者の懇談会
- ・手話の学習会



手遊び、お名前よび



水遊び



おやつ作り



お誕生日会



制作



さつまいもの苗植え

## ②個別指導・支援

それぞれのお子さんの発達や興味・関心に応じて個別に支援を行い、コミュニケーションの基礎を築きます。また、子育ての悩みや不安について相談できる場でもあります。聴力検査や補聴器の調整も行っています。

### 【内容】

- ・親子遊び
- ・担当者とお子さんの遊び
- ・コミュニケーション指導・懇談
- ・聴力検査、補聴器調整・情報提供
- ・難聴についての保護者学習



聴力検査



## ③保護者手話教室

お子さんとの会話で使う手話を身に付けていただくために、成人聴覚障がい者から手話を学びます。手話だけでなく、聴覚障がい者と関わることで、聴覚障がい者の生活について知ることができます。レベルに応じて初級講座と中級講座があります。



#### ④保護者教室

保護者の方に、聞こえない・聞こえにくいことについての理解を深めていただくために、専門家、先輩保護者、成人聴覚障がい者などを招いて、学習会を行っています。

##### 【開催している講座の例】

テーマ	担当
聴覚障がい児の育て方(関わり方・親子関係について)	校長
聴覚障がい児の言語発達	校長
聴覚障がい児の心理臨床、心豊かに育てる関わり	臨床心理士
難聴疑似体験	乳相担当者
聴覚障がい児の教育	校長
聴覚障がいと聴覚活用	校長
補聴器装用体験	乳相担当者
マイノリティ体験	乳相担当者
社会的自立のために必要なこと	進学先教員
視覚的教材の作り方、活用(絵日記・絵カードなど)	乳相担当者
人工内耳を選択しなかった保護者の話	先輩保護者
人工内耳を選択した保護者の話	先輩保護者
発達障がいと聴覚障がい	大学教員
地域の学校で育った成人ろう者の体験談	成人ろう者
ろう学校で育った成人ろう者の体験談	成人ろう者
乳幼児の発育と発達	保健師
幼児教育について	幼稚園教諭
障害者福祉制度について	市役所福祉課
聴覚障がい学生の大学生活	ろう学生



## ⑤関係機関との連携

聴覚障がいのあるお子さんを育てる場合、教育・療育・医療・福祉の様々な関係機関と関わりながら子育てをしていくことになります。本校では、それらの関係機関と連絡を取り合い、お子さんと保護者の方が関わる関係機関が連携して共通理解を図りながら支援できるようにしています。

### 【医療機関】

久留米大学病院 マリア病院 九州大学病院

福岡大学病院 福岡市こども病院等

### 【療育機関】

久留米市幼児教育研究所

肢体不自由児通園施設 こぐま学園

福岡市立心身障がい福祉センター（あいあいセンター）等

### 【行政機関】

久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター

各市町村乳幼児健診担当課・障害者福祉課

福岡県保健福祉環境事務所母子保健担当課等

